

吉野川と地域文化・景観を 考えるワークショップ

第5回(最終回)ワークショップを開催しました!

平成22年1月5日発行

地域文化・景観に配慮した堤防整備のための「吉野川加茂第二箇所 吉野川と地域文化・景観を考えるワークショップ」の第5回目(最終回)が、平成21年12月10日(木)に開催されました。

日時 平成21年12月10日(木) 18:30~20:30 主催 吉野川中流域地域文化・景観懇話会

場所 東みよし町役場2階多目的ホール 参加者 東みよし町の方々 10名

テーマ 「地域文化・景観に配慮した堤防整備の具体イメージ、配慮事項について検討確認する」

プログラム

1. 当日のスケジュール説明
2. テーマ、進行について
3. グループに分かれての話し合い
 - 高島・こまた地区
 - 原地区
4. アンケート
5. 懇話会 山中会長 挨拶



本ワークショップは、「吉野川中流域地域文化・景観懇話会(会長:山中英生 徳島大学大学院教授)」が主催しています。第5回ワークショップには、懇話会から、山中英生会長、三好末吉委員、前田安夫委員、大谷國廣委員も参加しました。ワークショップ開催にあたっては、徳島大学地域創生センターが地域貢献事業として協力しています。

ワークショップで確認したイメージ

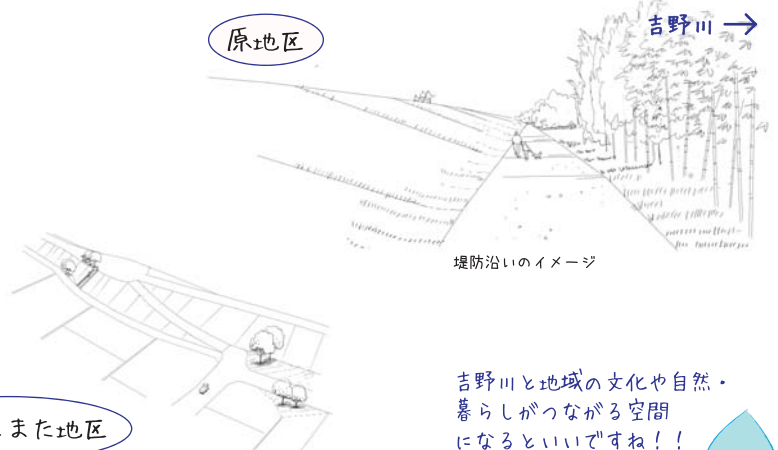
加茂第二箇所の自然になじんだ堤防

吉野川と人々の生活が昔のように近いものとなり、
堤防・吉野川・人々・動植物が調和した新しい景観へ

← 吉野川



こまたの遊歩道のイメージ



原地区

吉野川 →

堤防沿いのイメージ

高島・こまた地区

堤防を越える坂路のイメージ

吉野川と地域の文化や自然・暮らしがつながる空間になるといいですね!!



※ここに示したスケッチは、ワークショップで出てきたいくつかの意見をまとめてイメージ化した一つの案であり、実際の整備では、このとおりにならない可能性があります。

今回のみなさんの話し合いで確認した 堤防整備の具体イメージや配慮事項

● 加茂第二箇所全体

加茂第二箇所のイメージについては、人工的な整備の加茂第一箇所とは異なるイメージの自然的な印象としたい。

● 高島・こまた地区

こまたの遊歩道、排水路について

○こまた遊歩道は、きれいに整備をし、管理して欲しい。

堤防沿いの道路、堤防を越える道路について

○堤防を越える車の坂路は、潜水橋から川へ向かう道と堤防との交点にあると良い。

空間の使い方について

○潜水橋から川へ向かう道と堤防との交点付近や三三大橋の上流側付近に堤防上の展望台があると良い。

● 原地区

堤防沿いの道路、堤防を越える道路について

○堤防を越える坂路は、不動の渡しにつながる道との交点と、駅からまっすぐつながる道との交点の2箇所にあると良い。

○堤防の町側の側道は、原地区から高島地区まで堤防に沿って整備されると良い。

上下流方向に行けるように、車がすれ違える道幅が欲しい。

○堤防の川側の側道は、河畔林の中を通し、遊歩道、管理用通路としても利用できると良い。

堤防沿いの堤脚水路（堤内地側）について

○機能面だけでなく、景観、利用なども考えて自然的な印象の整備をして欲しい。

竹林、樹林について

○堤防の川側の河畔林はそのまま残して欲しい。

など

～ワークショップのまとめ～

全5回のワークショップでは、吉野川の歴史や昔の利用の話から始めて、堤防の具体的な形や利用の仕方まで話し合いました。こうした話し合いの中から、地域にとって守りたいもの、残して欲しいものが見えてきました。また、堤防坂路、散策路などの施設や、堤防の上から眺める新しい風景、堤防やこまたの空間の使い方など、具体的な利用の仕方について話し合ったことで、堤防のイメージを皆さんの中で共有することができました。このワークショップを通して、参加者の皆さんが自分たちと吉野川、自分たちと新しくできる堤防との関係性を再確認し、堤防整備をきっかけに地域の将来の姿を話し合うことができたのではないかと思います。

今後は、この話し合いの結果をベースにしながら、より良い地域づくりに寄与する堤防整備が行われることを願っています。

編集後記

5回のワークショップを通して、治水だけではなく、地域の文化・景観に配慮した堤防とはどのようなものであるかを地域のみなさんと考えることができました。皆さんが求めている空間が具体化していくにつれて、意見もより活発になっていき、とても有意義な時間であったと感じました。これから、ワークショップで話し合われたことが反映され、地域の暮らしと吉野川が近い存在となれるような堤防ができるのが楽しみです。

竹内 彩